本朝
神說

五

へ13
3046
5

3046
5

彰考館圖書

西剣奇遇巻之五

第九回

愛児富賈逢災厄
貪財汚吏異身首

泉州堺の津八古より我国に並びなき廣民繁栄の地にして異国の商船あつまる茅屋のまち教を紂ど又は地ろ蠻夷のたてまくも通行して駅ぬ利徳をはる巨商大賈財をかさべる宝珠寶ハ市廛に山を形し錦繡綾羅ハ街上にうちくるはるさ盛り

識者も眼を驚し此津にて富賈をかくひ商ハ軍用の人員に絞ることと俳徊しうち高屋敷を築くく一族知縁も教ることに此才一乃福者と呼ろ者あく踏者ゑ長ぶ酒ろよおぼ性質異常戾ふ〜ていさうを心よ〜ぶ〜で

情なくも婢僕を罵り打擲し不道のふるまひのみなれど富る
みな志びをつらぬく従ひ仕ふるもの多かりき一子はいまだ二三
歳なりけるが主寵愛して大名高家の若君とひとしく
もてなして養育せしかば附乳母は抱きて心よく遊び居
ましけるが何とかしけん庭前の井中へ取落したりしによ
く驚き大声を挙て家内騒ぎ人を井中に入て抱上たるに
打ふしぬ浅くして死するまでにはならざれども幼児のことなれば
ど驚風発して大に苦しみければ遠近の良医を招きまゐらせ
或は鍼薬をとむるまでもなく針薬祈祷に貴賤をおしまず
介抱しけるが志かし不幸にや程なく事果てぬるかくして
する一子を殊に乳母を悪みてきびしく罵り

怒気猛にして乳母を無礼なりと傍にありし棒をとりて殺さんとせしが
僕ら走り寄り忽ち乳母をかゝへて何かと叫び制しとゞめければ
漸く押へ手を放ちてに乗りて殺されずして御前を
立も去らず驚きて官に訴へければ死罪のがれがたしいかゞせんとおそれ
まどひて今更遁れ出ん事を思へども甲斐なかりし織部ハ彼也
こゝにあるべき有るにもあらずかくしもさうに宮家の方へ逃る禁
囚を免して我にかへりたりしに危難を救はんと思ひ出で
いひけるに助太郎は何やらん鬼の如く対面しけるに織部あつく
恐れかしこみて足下の附乳母に人を害せし過ちハやがて刑罪に
死し世にほろび家名も忽ちに滅亡せん危難を今ままは
ねらせんが此後とも命ずべき事を行ふにあらず仇をすべしや否と

とより小助は山賊となりて小梅ひまつりぞいかなる事ありとも従ひ奉
る恩を報ぜんと有べきやうもなかりしが助をれさせんと常せ
し宝剣をもて手を按じ死しける新婦が傳ふに端座して呪文を唱
ふる時は須臾の間に息絶えて悦然と夢の覚さるが如く起る飲食
志づらく動止常の如くなりけるまで助太郎は夫と共に術の奇特を感
じ助命の大恩いはでも謝さんとなす織部曰足下に託する事
余の義にはあらず今将軍家綱数嬉愚にして政正しからず
諸臣の忠護を守る者多くは義を志へ捨て苦あきて驕奢逸楽にふけ
るを見るに忍びず某大事をおもひて妙術をさづけ知勇の
武士をかたらひ義兵を起し無道の徒を討亡し天下万民
の憂苦をのぞかんとはかるに付て多くの軍用金を調へ

んと欲す汝今の是を言ふまでもなく郎等にもなし予が為に敵く
依て重く官位俸禄を得すらんと詞を巧くおもひ詐
りも盗む妙なるは恩を受くべきにて利欲に迷ひ貪る是を領
第し神文捨身を志てめぐる語を変ぜざる志をあらはし又
織部を奥に招じて珍膳美味の数をつくして悦びの酒宴を催
す遊藝に結構なる者をあつめ招きて席上乃興を添く
各々興けまじく飛つくほど織部も矢泊楽く沈酔に及びけるが
尚も術の奇妙をひらいて帰伏させんと再び紙を取て呪文
を唱ふれば忽ち亭中へ庭前に變じて淵となる聲おそろしく
草木の花咲みだれて色香をひろへ晴れ秋の月さしのぼり
く秋の霧中に生ひ茂り時なる吉兆が妙にも落つもりて時

の僕奈をあつめて幕をはりて美麗なる女童子を玉
まくり簀垂をかけ面白く拵びたる座敷に此男を請入
給へ給へとうちふ織部が袖の中より入くる聖奈苦
如く容姿麗しくなんバ助右衛門は是ぞ仙郷と思ふ
拵へたんかるる奇特をなさるべバてもよけれ事
疑ひなしと思ひあるぞおろかなる時斯波左馬智義淳
ご一族斯波統領義明と云者堺と云所に住
者西郷智にて那心あるまでに住く猶倍の義刺
をなす富乃民をすくく寵を侵を紛没してこれを賊と
己が德となすことを恥び彦くて不時の料役を拵るにぞ住て

到りてくハ命ふ迫ぜざる者多くみけるをおどろき捕てく獄屋
へつるぞ恐ろしかる赤ふ屋が乳母と報せしてもをつくも告知
を考ひのまくに下吏をはらハし捕てんと云ひしが乳母蘇生
しるよりをなくに居るまでふ又織部が妖術をなすこと
るをもをく希代の曲者ぞとくく疑るべと自天勅を
注くく赤ふ屋が宮方を庇護あるそ世に男女を惑
く薄と捕へ給ひけるぞ織部ハ行方を形く迹なく消失
たるざりで助右衛門と日く考同一幻術ふ世をまぬかれ消滅
ふ一味するくせもの強者と行うく疑を白状をべく
ふ天の責に苦しつるを飽媚ふ人と形一重弱の助右衛
でよ後命をんと云ふ時織部ハ楠山懸を使ひ訟庭を入

まう沒ス羅ヲと助ケらるゝ人ハいまあを和ゆゑ一けんバ無尊大な
怒り猛獣者かゝめよ〻ゝ幼ケ〻るゝ赦人の應捕むゝかゝりて
かゝめんと働き大、橘山懸隠練の拳はまく人礫をうち投ちゝ
せば罪もおのゝきて再び迫づく者も甘ゝ手もバ無尊なる叶ハゞ
よや思ひおむ思をたゝて迎入を獄郭充かつゝそ脇をゆらゝへ
民を苦め強者に力なる逆賊の孫うハかくぞゝゝまたに力を
ぬいゝく両隠ゐ斬放をバ血汐ちどゝ〻まくひゝるを紅よ染すゝう
見を見ゝくいよ〻恐き驚く館中の役人一人も殺ぎ迎蔵ど
ゝまで死すゝて獄屋よつぎまゝ者をおどゝくゆゝ也
けもバおのゝく絶後ちゞ死ゝるを又ゝく奇ぶる振ゝ形
殘郭法人なむゝひ地庶民の涙ゝ紙とあまゝかゝれ如く

ゝ史と涙罰ゝゝう是ゝ始ゝて天下乃大名高家をハ心
ゝで國民と浸潤ゝ苦ゝの徒と討さん義兵を挙ゝ
ゝあゝちハ貴紬を出ゝ軍用とたゝをけるバ切ゆて後ゝ多く忠義
すゝゝゝびゝゝゝ勝ゝゝゝと始ゝ幻術の奇特と中の徒又
ゝ獄屋を出ゝまゝゝとゝゝゝ軍用の金銀
おびゝゝく送ゝゝゝとなゝ

第十回

誠心切孤婦報恨
幻術破三士殞命

淮南子曰庶女夫ゝ苦て雷電ゝう齋王墓ゝう落く支體傷
損すゝ婦女ゝゝゝゝを丹誠の切ゝゝて乃んぐハ事をかゝゝく
いゝゝゝゝ麗嬢ゝ父の仇李樹と親ゝ雪冬と至ゝゝう

爰に至りて文武ともに備りしゆゑまひ古今甚だ稀なる事
かくて織部ハ思ひのまゝに軍用金を集め多人を集めに擄を発足
し御家にして酒をやめ日毎に加へて智術に諸葛の韜略
勇悍なる者をかゝへあまたに三士の豪傑なるを招ぎ又ハ幻術に
すぐれたる者をも一味する者二千余人に及びたれバ己に旗を上んと
高職しけるが郡國のなかにし鋼鉄の名ありくハおくべき次に南
朝の皇統小倉殿嵯峨におはしますを宮をとゝのへ給はゞ伊勢の
国司の余類を始め南朝同忠の武士国々より蜂起して力を合すべし
しと思ひあれバ織部ハ嵯峨にいたりて窃に宮に謁し頻に
是を勧めまゐらするに宮も同意まし楠山懸にも是面しあひ
精忠を尽して南朝再興の功をたてよと君臣の約をなし

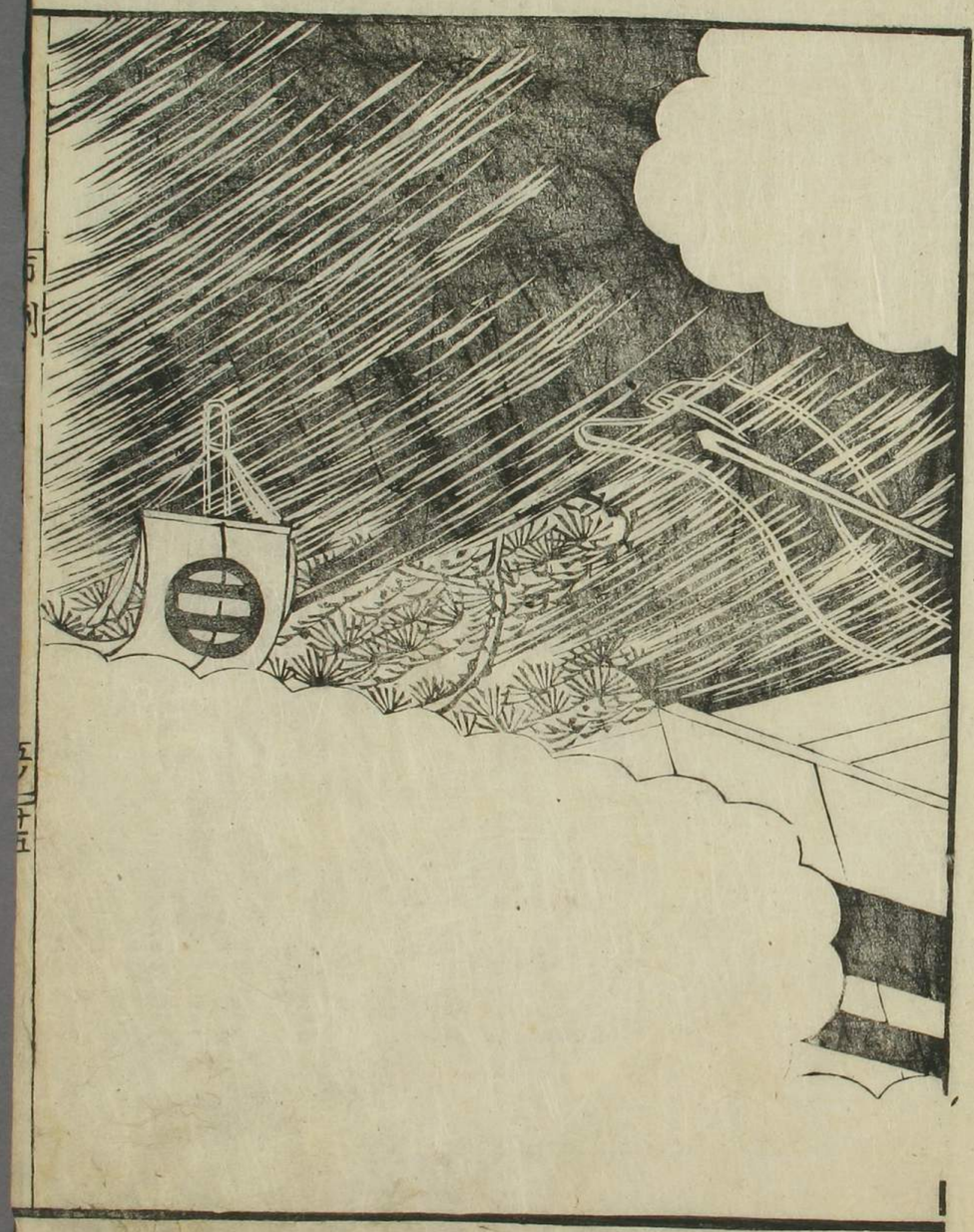
たまふ。けれども将軍義教ハ鎌倉の管領持氏と不和にて
常に征伐せんと思ひしまゝで富士山見物するよしにて駿
州今川範政がもとへ赴き関東の動静をうかゞひたまへれ
りし織部是を伝へきゝて今屋に京都を焼討し
帰路を待ちて将軍を取てめ容易討べし諸方の与力
城郭とも喜び徒党の面々に合図を定め会合甲冑
弓箭兵糧等物あの備へをなすし私に隠密にかくひき
まゐらせも多勢のもとまでお聞きまゐらすく管領義淳へ
告る者ありけまでお目塚ありく統後にも害をし幻術をなす
逆徒あらんに遠国に逃れて楊ひ強大になら征し難
からんと急に麾下の精兵千余人をすぐり出し深夜の不

意をかくらんと宿所の四方とす重ねて不取圍を炬火角の
ごとく天を焦し水も沸くばかりなる勢ひなりしが獄部八鍬
形の兜を着し紙おどしの鎧に金の束配をもつて拵たる太く逞しき
躰にて捧げたる八蘭英毋ぐしの撞木白柄の長刀をかいこ
山懸一角八重糸の縅を着し頭乃髪を振乱し待ちまうけて
氷のごとき大声を抜放ち合ふ所方廿余人行のごとく物の臭うて
めくるを花者は注ぐ門外しぬぐ出るこの男ぶり海内行きも一
騎當千は英雄と見えて勇ましく斯波ゑ多物八見と
中に名誉かくめんあるぐ乗り出て体中かくし引退
く西へ三町ばかりなく斬てまわる斯波ゑ物八須臾乃間乃
手負死人ばかりなるまでなり八くて鞍ふ乗ぐ御ふ出ぬ八

斬めかぐと素記を抜て片ぐるとぐ乃鬼の剣とあさ呪
文を唱へまぐ織る暴風起りく沙石を飛ばく揺と恐天のごと
ちかくかくく敵味方と変ぐ同手すくるを多くひぐく
男ぐるる小一人も抜ぐやもくく抜くを落く東ふ楠義
つ伊徒と退拉ひ狼烟とあぐ一味の逆徒合圍を遠ぐ
と出んとひくく弾集る庫中抜ぐ物の分沢ぐ
勢くく又くくくくめぐすハ将軍の大事ぐ出系乃法士を物と
率く我もくく宅所ふ弾ぐ系ずるくるまさハぐ抜ふ恵ぐ
くる町くの男女老少魂も魄も丹ぐ清びて東へ逃ぐ
親ふるを見ぐ義八文と寄稼清ぐ同事ぐ行ぐ明
濃ハ彫波九藩督自ふ馬ぐ一騎金鎖の物を提く東寺を

元圍一時に攻さんと勇猛を励し射出す突ども元るまばらに
くあるとくくやつを男の面く嬢を縅へいを被りて進み入らんと
する時織部一人言見所なあるべき日本國中に軍名を偽
来るも恐るべき況やかるる小勢を慶殺する小囊中の物を
探るもやすきこと言ふ例のごく法を行へでさる腥き一
陣の風さんく吹来るおとぶおとろし恐鳥猛獣いづくもあく
出来ること教とまるべき川端を研て歯牙とする人るとつき
り別者と勢ひいかる勇士も面をむることいとこび古く孔明が
詐ち圍と攻一時もかくやと云ひ出まく偽る防ぐべき方便
も出ず茫然たびまこくに絶言するいろ色をして逆徒を
拒ぎを捨ろくくどと笑ふ郭波義淳言ふ

澄方なくるとせて宝所よりこう将軍に加勢の沼勇と
云ふすきバ大ち勇るせるひ知りて恥をこび孔攻べき群
臣を集め日夜評定まちくにして更に一変をどもと
くくく十日ばかりも過ぐるに吉野に籠る英名高くと
よ有るが織部反逆と全く勢ひ強くして将軍方ふ小
もいつまる事出まで逆ふ人力無く恐さんと思ひ
らば仏菩薩慈悲の力を頼むべしとふ霊験いつと
なる清水の観音に祈る二七日今を断く参籠の丹誠
をこめ一心に祈望けいばいむれ参るうんとちひ拝みあ
感通来 鳥居を潜る衣を着て古き笠をいただく老僧
言の葉に偽を花を居しが酒を入るなかさふ杖を拾く



大きに笑ひてこの言のごとく洞靈術者なりと思ひ侮りも
佛の示現もやく心得違をなしの者と同じく不傳
よ拙なくして者をもつて人を
いひくるめ欺やく同じく人
かくしひとをたぶらかすとすれども魔の法術をくだき
破ることを知ざる愚の愛ひとを迷う庶民の愛ひとを
まどわさるを知ふことふかおどろきてまことに師の術を破る
乃法を知なまじ同じ術を修し嫉妬婦人を治するもまた理を知す
ふを結まで付き嫉妬婦人を治するもまた理を知す
幻術を施して堂をむすび孔をうすとの者とこれも神仙
乃術をもつて邪法を破る術をもつて

生する者なり織部が術は唐の代より於て蛋子和尚白雲
洞より霧出をし左道のはなはだしく聖姑胡永児王則乃徒より傳
へ来りしものなるべし孔と信じ法蔓知遠より伝へ破邪神
咒を唱へ猪血羊血乃び馬流大棗蒜のごとき乃穢物をそそぎ
かけまでも一滴逆使乃身上にかけまくも神鬼を寄ずの事
能ず勿ち変化の術も破ぶていんともすることなどいふ
言乃はなはだ尊び生咒文を授んことを請ふ偽ち名ひ女
婦人をして是をつくらしめ織部は父母の
仇なりまとなりと頻に授ん事を請ふ婦人は
稀なる志の厚きを感ずる余と破邪乃神呪を教授く
伊勢の国にあるを聞く者なるゆまくは是親世なるのはまくく信心膽

よ弼し数度の仏あるよ禮なして謝せすう英布悪つがとふ
ゆうくかるこ沙きバ古悪つも大き音び是をこ君の功みてく
多年乃至悪を被きんと平遠島山満家う沙きバ満家
将軍に渇して所不者中ひくぶこもねずるこ細あきば家
乃討きを沙し沙きまかこと彩ひくるふるれく許容いけ
きこで助波義清も儀よこけるが歌き寺代の幻術を行へで
尋書にく攻戦ば手ぶ如く敗北こうんと必ずいこるぬ
計をやぐこさうやきこれた家易ハ亡しかこうんとみ敗
うき彩うるきでいよ〳〵勇きを励し一鞭よ討亡して法
人の眼とおぐろうせんと室所の御所を追出し窮う書の
江を鎮軍に招き破邪の祈祝を接ぐべくとひきバ書の江

加こ面ひて是を使く君の武威よりく遂賊破きるバ行軍
家臣よ命じて鬼首御ひを生捕ふし高よりこうば自う
首を刎く親文の書信よこ家志彩よいと彩ひききバ
沙うこう中条切ふこば細あしと紙沙ありてを物二千
余騎と借し猪羊の血馬尿太米畏の猟地と多く捕ふたくへ
雑会よ招このをて お馬あっいなと知ぐろ住いこう計ふを
あやしこ沙ひこう徽郎の助波が家勢と破ふしうこ再び寄せ
来う歌もなしけきバ塀よ櫓とうこ狭乃とひを捕とこべく
防御の備へ堅固あして小倉殿と迎へきうかるよ玉磨を
ち面ようこ多自う将軍と潜号し播山懸を副将〳〵才
異ある者を撰ひて一隊くの大ねと定あ懸を築く自うを

よつて各〻日毎ふ士卒駿馬乃調練をなし軍令を嚴し
陣法をあらため鶴ヶ岳を築て法大名をかゝひやぐそ宝所る押
よせんと猛勢を後ぐるる丞く畠山滿家おの〻餘波をう
とよりをバ佐竹義の面〻ひぐ多ひおつ日のをせ〻ふもちまで
攻まるハ潤裏よ逃む免を同ト行甲も於ぐ討亡と幻術
を教ゝ多ゝ搖ゝく斬ゝ敵ゝ畠山が梅ハ隊伍整〻と
して外も乱きずして敵ひまぐ猪奥も見ぐるるがいで乱
ゝ義宝て昭とおぐらせんと山縣一角大ゝ力と日ふ乱めら
てきのせんよるるとすめ斬ゝ廻る猛雪よひゝ引ゝ色ゝ見
てる丞ふ畠山が方よりも花やゝふ出ゝる武者一騎ゝ柄乃
槍を持ゝく山ぐるるゝ合〻ぐ和術をはゝし

吹つるまでいぐゝ義を歌唱方も今日乃義ひハ是ゝ
をきぐるゝく見捨てふ山縣刀法みぐきゝふ危く見へられ
で是と叔ゝと獄アハ門よふ抜ゝ玉例のぐく法を行ゝで
丞風走ゝく鬼兵猛獸ゝ多ゝ
級せんときゝ多ゝ滿面ぐ出ふ孫をけ〻畠山が勢崩
猶を門よふむゝく抜ゝだかゝ多ゝ馬屋大糞の穢
かゝ外も猛きゝ多きバ丞風多ゝ鬼兵猛獸ゝ
ハ芝東邦ゝ丞ゝ抱ゝ孫ゝ地ゝ落ゝ動ゝず
叔ハ妙術も破ゝ多ゝ山縣ゝ丞ゝ門よふ戻せ
で畠山が勢ハ是ゝ勇ゝ妖術破ゝ逃
徒の大將を討ゝく悪ゝ叫ゝ

城を乗っとり敵いく進て入ち早よ斬ふ〻ら御先て力と
おもへ一はい烏合の勢なれ共ハ義ふ訳なれ共ハ将ハ強ぎ〻て
と身を捨ぐ乱すまでなる者なく早少倉殿を堅
おもく深系する者あまたで大軍ハ落ち世又ハ沢山に討まく
敵ハ臨時よりふまて者ゆゑの二十人ばかりと形きバ行まる
今ぞ二十人の一軍とこひ拵め雪見ぶる十信して勝う
出〻る富山勢と門前迫せ〻門を閉て出ることふ居る
こひよ自害〻〻ふる御ア八力とふ拵ゆゑ我今世
まきぶく世を去ふる一度参領の討死を退を義教を
始法候の捨を冷さ世きバ名ゆまあ代ふ留むゆと枯ふく
千と世強る落のよふこひも強あきバかまふの身と行強くらん

と辞世乃一首を程よ書付く被切と世ふる富山が臣等
去り来ふかあんとすを拵ふ世二十人ハ斬伏ぬ
いぐ去ふん國よつまぐふる寄ゆて力者ふ
強る縄をぞ拵ふる山賤構ふの徒ふ已ふ自害し
世ふ街よふ千ぐ去ふ室所よつまで将軍大ふ感賞ゆまく強ふの新
よまふ世御部と法中門強て法ふ世ふまふ
父此堅捕史保信が実信とみふく家ふ自ふ力ふ雄言
敵を討く家魂よ謝〻まふ〻ひて着を手義し去る
姫ふとふ英左馬ふ史婦よ姫をふひ両人の美提を法
いんと法国の宝揚とめぐふく手強く法貝ふく強生を

遂に[illegible]雖雄乃劔ハ[illegible]
[illegible]

両劔奇遇巻之五終　大尾

安永八己亥年正月吉日

京都書林　寺町三条上ル町　菊屋安兵衛

實話東雲鳥　全部五冊

[illegible]

板行目録

[illegible]

京都書林　寺町通三条上ル町北角　菊屋安兵衛

孝経　山崎嘉点　平道春点　全一冊

十四経指南　林玄亨　経絡図解　全

三体詩　道春点　三冊

[illegible]　恵瓊　彩刻　全

[illegible]大師伝記　二冊

[illegible]　小坂氏貞直　三冊

和歌[illegible]波志草　続是著　彩刻　二冊

文通[illegible]　中村三近子著　全

[illegible]流[illegible]　全

藝苑録　東郊藤元鳳著　彩刻　二冊

十四経[illegible]　全

[illegible]心経[illegible]抄　全

[illegible]　五冊

三国温故要略　五冊

[illegible]集　二冊

[illegible]　中村三近子作

[illegible]　五冊

[illegible]文章　全

紀伊國風土記 名入後本 四部合本 六冊

過海 名入後本 五冊
四部合本 世俗物語 新刻 後人心車

神道三種太秘多三説 明松斎全 秀著一冊

男用文章大成 全

風雅 清人 若紫姫神異記 名入 新刻 後本 五冊

西行物語 三冊

和哥威德物語 五冊

万葉和哥清濁 二冊

物語懸愚集 慧燈 七冊

後者物語抄 三冊

一角仙人日本伝説 名入後本 変化後編 五冊

讃州金毘羅大験記 讃岐 全 三等選 一冊

童訓往来万海宝藏 庭訓并往来物 文章重法品々 全

濃井物語 平多 名入 六冊

文盛明赤壁賦 草云 中多 一冊

御家模文章 勝命 新刻 一冊

女筆濃織紋 一冊

正多字文 通字 楷書 二冊

赤鳥帽子新氣質 後本 名入 五冊 風俗新刻

接続後物語 古神宮 弘法 新刻 一冊

葉加正傳 中臣祓奮證 堀了舊口授 真片カナ新刻 三冊

口合祕支 手引草 仕用并ニ高判集 一冊 辰ノ秋新刻 桂庵 紫山 両選

倭異、倭異、淮東集 虚驢驢先生 一冊 大套話片カナ付

右俗語ヲ以テ滑稽話ニ準ヘ時勢風習ヲ誕奇ヲ究妙ヲ竭シ謔誕人ヲ解ス八珠詑ヲ集ム

絵本 西本願寺御棟上記 宝暦九年 九堂 一冊 地築式式諸必ヨリ集 再建次承

大絵武者のぐりゑ 文武智勇海 酔茶亭新画 三冊

夢福雑書万宝藏 世相卦易 全

懐暦雑書万宝藏 表面打ち 暦上中下段之支 占卜重法集 日本 針術元祖 全

菱分流鍼道祕訣集 庁カナ付 合 一冊

勧信念佛法語 平ノ名 安ノ事 全

汉波保久左 荒虫著 新刻 七波志草 返答 木蘭草ニ再答 一冊

本朝水衡傳 後足著 平ノ名 自一帖二十帖三十 巻

宮川歌合 西行法師 作 嵐濯川俊成判 同下ノ巻 定家判 二冊

書翰庭訓万海宝藏 首書重法品々入名付 一冊

町家繁栄世間旦那氣質 名入 永井堂新著 五冊

古平武家一覧 中本 武著 絵 首書注入 五冊

算法盛記 相弘神原一学著 二冊

童字節用大成 小本大字 全

算法得業録 南都岸与三郎著 諸術評判子供愚問 諸国繪馬解之問之 愚問新刻 全

女四書周文章　全

真宗勧化護法篇　桑華題　安堂新刻片カナ　五冊

安永新刻　本朝奇跡談　政勝　四冊
当時巡見大日本六十余州海川山名所旧跡難国風記、絵入　カナ付

風流睟談義　凡流　五冊
本世睟ふ睟編し　安永彫刻
并法義の究とゆふを　ふりがな入

懐宝両面記　年代記并一代卦入　一冊
ふりがな

両面万年暦　年代記年々大小吉凶
ふりがな　教ゝ手集ル　一冊

遠国孫　今流及人按訂
三門実録孫なれる
則百刻と筆て頌とゆを
えらむ　前編　一冊

丹州千箇畑
大道和尚法語　片ふりがな　一冊

世話一ろ草　世話ハ故事　六冊

道得問答　石田先生門人兼葭
三教其ゆでまるゆの要と法滅のろゝ　四冊
うゝ門めんゝるゝとまるを　ふりがな彫刻

睟口五色帯　百人亭年頭　三冊
本世睟ふ睟　ゝゝ亭合向　安永彫刻入
の性の住やうとゝくゝ集ら

本朝蕎物語　全五冊
不清垂上ふ名ろゝ蕎名斗ら　安永彫刻
孫入ゆ名ろ取組入隠続ゆ記入　ふりがな入

両面宝法記　故事　五冊
増補ふりがな　号式入

古今相撲大全　五冊

役者色仕組　年切ふ　五冊
絵入

雛形伊勢乃海　彫もゝ　三冊

雛形富士乃根　彫もゝ　三冊

日海古平記　百辰帝永徳元年ゆ　百六代天文年ゆ　凡五千余年十五冊
片ふりがな

文徴明何氏語林帖　彫年　一冊
小字

大和年代記　法方乃中記入　一冊
表面ふりがな

睡口福ゆ門　作者　其碩　又冊

芝居三昧　宋并今淡著　浸ふ　又入　巳冊
西ノ年彫板

立身弘乃夢　又入　又冊
よゝゝふ
西ノ年彫板

風流酒吸瓢　瓢友芸　五冊
絵入ゆゝゝふ

絵本辞意扇　役芸ゆゝゝ記
絵をゝうゝゝき画　三冊

日万菓集　女中風俗ゆ記絵　三冊

日夜子宝　女中教訓風俗画　三冊

日用字宝
字尽大成　増補童子学用集　一冊
彫刻小ふ
風流
続ふ　世間仲人永賀　ゆ入　五冊
中云彫刻

世宗勅纂醫喩抄　年ゆ　ゆ入　三冊
中春彫刻

菓湯諸鈔大成　ゆ友之用
菓湯大全　十二冊
禅林法道和尚
かゝ形法語　并セイコウ多　有授訣　一冊

旅人懐中宝　乃年紀ゆ戸絵絵安永没并
伊勢ゆ必ゆ地図絵ゆ有ゆ入
年代記年ゆ表ゆ年紀ス
折ふ

篆刻志元孫　義別菓并直松　一冊

日続弟叢扇　お編ゆ絵ゆ
永大坂役ゆ　四二冊

日歳者通鑑　祝号　三冊

日歳者軍鑑　智勇彫号　三冊

同江戸古屋 [illegible] 二冊

紙絵死記 [illegible] 二冊

狂歌四季記 [illegible] 一冊

諸名家集

京易学問の問 易経 [illegible] 一冊

豊州往来彩文 [illegible] 大冊

今古奇観 [illegible] 又冊

絵本国新撰 [illegible] 二冊

同絵江戸古屋 [illegible] 二冊

茶元章千字文 楷書 一冊

狂歌義記 [illegible] 一冊

法方乃中記 [illegible] 一冊

絵本方法 [illegible] 二冊

約書千字文 [illegible] 一冊

同化相記事趣 小林殿石碑 二冊

陰陽五行通書 [illegible] 一冊

日用暦 永代万年 [illegible] 一冊

一休狂歌 [illegible] 小冊全